

研 究 分 野	資源評価	部名	漁業開発部
研 究 課 題 名	東通原子力発電所温排水影響調査 海洋生物調査		
予 算 区 分	水産業企画調査費 (広報安全等対策交付金10/10)		
試験研究実施年度・研究期間	H.15 ~ H.27		
担 当	吉田 雅範		
協力・分担関係	水産振興課		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握する。なお、本調査は東通原子力発電所温排水影響調査実施計画に基づく調査項目のうち定置網水温及び主要魚種漁獲動向（サケ）について実施した。

〈試験研究方法〉

- 1 定置網水温：サケ定置網に設置（4地区各2ヶ所）して日平均水温を測定した。
- 2 主要魚種漁獲動向（サケ）
 - (1) サケ沿岸漁獲変動：平成15年漁期のサケ沿岸漁獲尾数を集計した。
 - (2) サケ標識放流：サケ親魚の標識放流は、白糠漁港前沖に平成15年11月15日に30尾（カ-標識12尾、ディスクタグのみ18尾）、12月22日に30尾（カ-標識12尾、ディスクタグのみ18尾）の合計60尾を放流した。

〈結果の概要・要約〉

- 1 定置網水温

サケ定置網海域日平均水温を図1に示した。海域日平均水温は、9月では18.57℃～19.50℃の範囲、10月では16.76℃～18.75℃の範囲、11月では14.02℃～17.46℃の範囲、12月では12.09℃～14.40℃の範囲であった。
- 2 主要魚種漁獲動向（サケ）
 - (1) サケ沿岸漁獲変動

平成15年漁期のサケ沿岸漁獲尾数は青森県全域で138.7万尾（昨年比100.1%）、そのうち太平洋側が102.8万尾（昨年比93.6%）であった（図2）。また、東通村白糠漁協では14.0万尾（昨年比112.4%）であった（図3）。また、秋季には大型クラゲ（エチゼンクラゲ）が青森県内の沿岸に多数来遊し、サケ漁業では定置網の操業に支障が出るなどの深刻な被害を与えていた。
 - (2) サケ標識放流

再捕されたのは11月15日放流群が5尾、12月22日放流群が1尾の合計6尾であった（表1）。このうち、カ-標識魚の再捕は3尾あり、それぞれ再捕までの間の生息水温、水深、時間データを得た。

〈主要成果の具体的なデータ〉

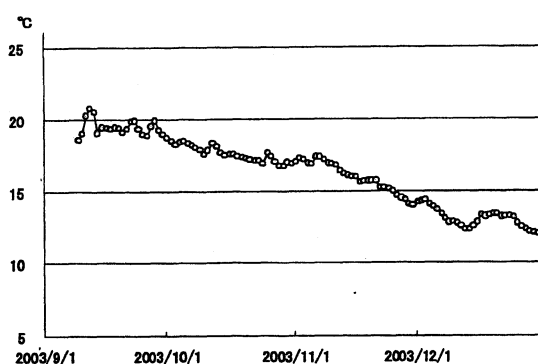


図1 サケ定置網海域日平均水温の推移

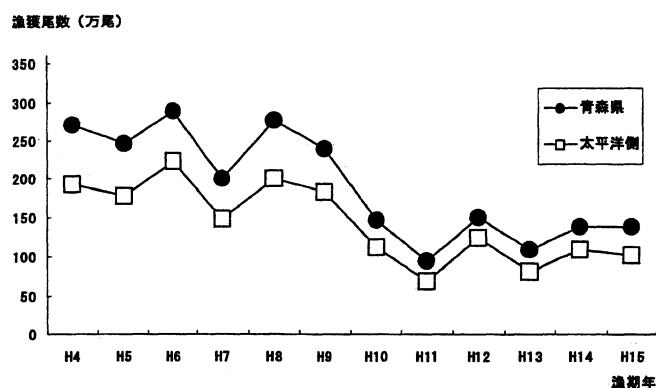


図2 サケ沿岸漁獲尾数の推移（全県、太平洋側）

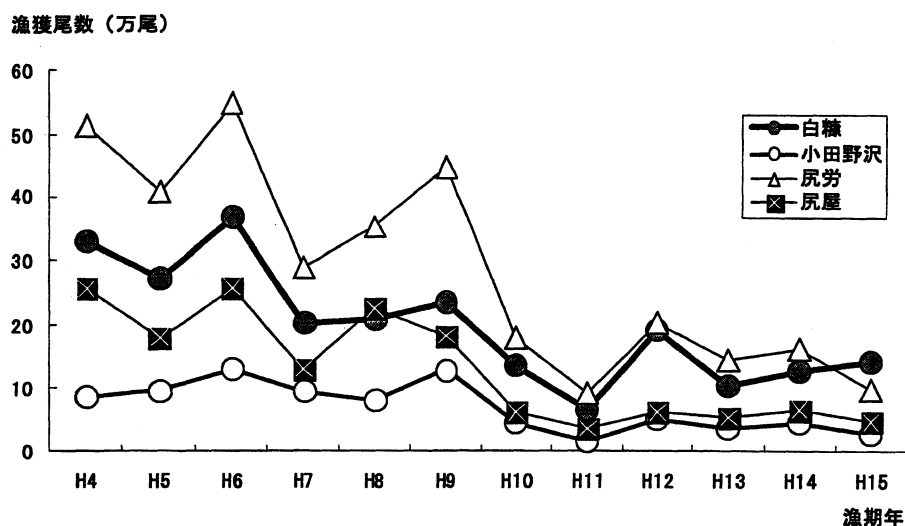


図3 東通村太平洋側各漁協のサケ沿岸漁獲尾数の推移

表1 標識放流魚の再捕結果

放流月日	再捕月日	再捕場所	再捕漁法	標識種類
H15. 11. 15	H15. 11. 16	尻労沖	刺網	㊦-標識+㊦イスクタ
H15. 11. 15	H15. 11. 16	尻労沖	刺網	㊦イスクタ
H15. 11. 15	H15. 11. 16	老部川	やな	㊦-標識+㊦イスクタ
H15. 11. 15	H15. 11. 17	白糠沖	定置網	㊦イスクタ
H15. 11. 15	H15. 11. 17	白糠沖	定置網	㊦イスクタ
H15. 12. 22	H15. 12. 22	白糠沖	定置網	㊦-標識+㊦イスクタ

〈今後の問題点〉なし

〈次年度の具体的計画〉今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

青森県（2003）東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書平成15年度（第3四半期）。